

手術制限に関するアンケート調査結果（2020年4月23から26日回答分）

日本麻酔科学会COVID-19 対策特別委員会は全国の認定病院に対してアンケートの回答をお願い致しました。今回、2020年4月23-26日にご回答いただいたものを集計いたしましたので報告いたします。

質問内容

”本調査は毎週の日本全国の手術件数と手術室制限状況（COVID-19患者専用部屋やICU化された手術室の数）を調査することにより、麻酔科医・手術室のワークロード現状を調査することにあります。

都道府県名だけの入力ですので、施設の特定がされることはありません。ワークロードの減少、増加を把握することで、COVID-19による手術施行への影響や回復程度を類推することが可能になります。

さらには、麻酔科医の配置などに対する要望にも対応していきたいと思っておりますので、週に一度の定期的入力をお願いいたします。”

結果

1415の認定病院のうち423施設から回答がありました。

施設合計の手術室数は3,065室、そのうち66室(2.2%)はCOVID-19専用の手術室として準備されておりました。全体として調査期間（一週間）に23,631件の手術が行われ、この数字は昨年度の平均週手術件数と比較すると83.7%でした。16.3%減少していることとなります。

特に東京都（59.2%）、神奈川県（69.4%）、兵庫県（81.0%）では手術件数減少が著しいです。（図1、2）（図からは登録施設数の少ない都道府県は除いています）

本アンケートは全例調査ではありませんので、回答された施設の現状であり、必ずしも日本の全ての施設の現状を表しているものではありません。日本麻酔科学会COVID-19対策特別委員会は本調査を毎週継続して行い、報告して参ります。

図1 手術件数が減っている県
(前年度週平均比)

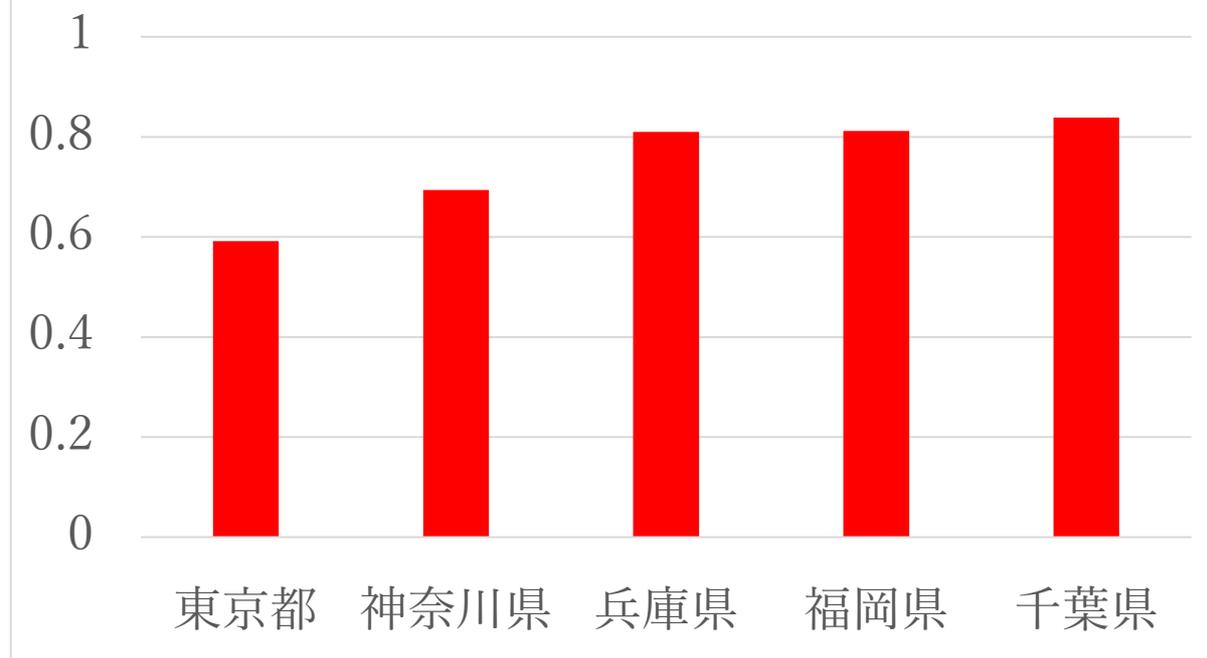


図2 手術件数が減っていない県
(前年度週平均比)

